

# スポーツ外傷予防とマウスガード

## 演題① 「ラグビーにおける頸椎・頸髄損傷」

兵庫医科大学整形外科教室助教 岡田 文明 先生

## 演題② 「スポーツ外傷におけるマウスガードの役割」

大阪大学大学院歯学研究科教授 前田 芳信 先生

日時 2012年1月21日(土) 14:30 ~ 17:00

会場 兵庫県保険医協会会議室 (JR・阪神元町駅南へ徒歩7分)

### 「ラグビーにおける頸椎・頸髄損傷」

脊椎・脊髄損傷は、交通事故やスポーツで発生することが多く、永続的な disability を有する場合もある。スポーツの中でもラグビーは、コンタクトスポーツであり、スクラム、タックルなどの特殊性がある。近年、技術は向上するも特に高校生など筋力がまだ未成熟で経験の浅いプレーヤーでの受傷が多い。

今回我々は、2例のラグビーによる頸椎・頸髄損傷を経験した。そのうち1例は、出務中、実際のフィールド下で事故は発生した。18歳男性、ポジションは右プロップである。試合開始直後のスクラムが崩れ受傷した。第6頸椎脱臼骨折・頸髄損傷と診断され、手術をおこなった。その後空路、帰京しリハビリを行い車椅子ではあるが、自立した生活を行っている。もう1例は17歳男性、スクラムハーフである。タックルをうけ、ゴールポストに激突し受傷した。受傷後、頸部痛あり、第2頸椎歯突起骨折を指摘された。Halo-vest に加療、骨癒合した。現在、大学に通学している。これらの経験より脊椎・脊髄損傷のメカニズムを分析、予防と今後の取り組みについて検討した。【岡田文明 記】

### 「スポーツ外傷におけるマウスガードの役割」

スポーツ時、特にコンタクトスポーツの際に口腔内ならびに周囲組織の外傷に対してマウスガードを装着することには外傷発生の予防あるいは重症度の軽減という効果が期待できる。また頭蓋への衝撃の緩和により、脳震盪の軽減の可能性も示唆されている。

さらにマウスガード装着による安心感や良好な咬合接触が与えられることによる全身のバランスの向上効果があることから、本来の力が発揮しやすくなることも期待される。しかしそのためには、「異物感」「呼吸障害」「発音障害」のない使用しやすいマウスガードでなければならない。今回はこれらの点について現在までに得られている科学的な根拠とともに解説してみたい。【前田 芳信 記】

お問い合わせは、078-393-1801 橋山・沖野まで

◆FAX (078) 393-1802 へ(切り取らずに)ご返信ください

1/21(土)神戸支部医科歯科連携研究会に( )人参加します。

( )区 医療機関名

参加者氏名 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

兵庫県保険医協会

246号 2012年1月5日

## 神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

2012年

## 新年のご挨拶



支部長 田中 孝明



神戸支部の皆さま、新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は神戸支部活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

さて、昨年は東日本を襲った未曾有の大震災により、多くの尊い命が失われたことに深い哀悼の意を捧げます。同時に被災された方へ、心からお見舞い申し上げます。

神戸も17年前に阪神大震災により、壊滅的な被害を受け、現在でもさまざまな諸問題をかかえており、完全復興にはまだ達していないような気がいたします。今回の被災地におきましても、これからも、復旧から復興という道程は厳しいものと想

像されます。長い目で見守っていきたいものであります。

社会保障の分野に関しましても、年金問題と同様に、日本がTPP参入することで、混合診療解禁、薬価の見直し、アメリカの民間保険会社の参入が考えられるなど、まだまだ国民に対して説明責任が果たされておりません。

辰年の今年、先行き不透明な情勢であります。兵庫医協会は、雲海を突き抜け、雲ひとつない大空を駆け巡る竜のように、各種活動を行っていきたくらい、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 健康と医療について語り合う会

### 「目の病気」の理解深まった

神戸支部も協力する聴覚障害者の医療を考える会(略称:いのちを考える会)が11月24日に、あすてっぷKOBEで学習会を開催。「眼科の受診～暗室での検査、どんなことをするのだろう～」をテーマに、松葉賢一先生(中央区)が講演し、20人が参加した。感想文を紹介する。



講師の松葉先生

講師の松葉先生には、目の構造と機能を図でわかりやすく説明していただいた後、結膜炎、緑内障と白内障、糖尿病網膜症などについての症状や原因について解説をしていただきました。

病気やその症状の種類はたくさんあり、知らないことばかりでした。糖尿病網膜症は、自覚のないまま視力低下が起り、

治療をせずにいると失明に至るとのお話でしたが、健康管理をしっかりとしないと色々な病気になると改めて思いました。

先生のご講演の後は、たくさんの方から積極的に質問が出され、講師の松葉先生には丁寧に答えていただきました。今回は貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。参加者 Y. M



神戸支部新春講演会

## “なでしこ”を世界一に導いた歯医者さんのお話

日時 2012年2月19日(日)午後3時～

会場 保険医協会会議室(JR元町駅から徒歩7分)

講師 小田デンタルクリニック 院長 小田泰史先生

ゲスト INAC神戸 監督 星川敬氏

なでしこジャパンのドイツワールドカップ(W杯)優勝では、選手たちの最後まで決して諦めないプレーに、勇気と感動をいただきました。私は、出場選手のほぼ半数を要する「INAC神戸」(澤選手、大野選手、海堀選手、川澄選手、田中選手、高瀬選手)のスポンサーとなり、選手たちの口腔管理やスポーツ歯学の治療を行ってきました。今回の講演では、選手たちと過ごした思い出や経験、ドイツワールドカップ時の裏話や、今年のオリンピック必勝の取り組みなどを披露し、女子サッカーをはじめスポーツの魅力について皆さんと交流したいと思います!

【小田記】

お問い合わせは 078-393-1817 田村まで



## かざみどり通信

神戸支部ニュースでは、会員どうしの交流を深めるため役員・会員投稿シリーズ「かざみどり通信」を始めました。テーマは自由です。

思えば、幼少の頃から「洞窟的なもの」に対しての憧れはあったように思います。『ミクロの決死圏』で、隊員たちが小さくなって体内に侵入し活躍する様を見てハラハラし、自宅の裏の梨畑にあったアリの巣やモグラの巣を不必要に掘り起こしては、これがどこまで続いているんだろう、と想像をたくましくしていた毎日でした。

そんな私が小学校3年頃でしたでしょうか、その頃は東京に住んでいましたので、奥多摩には休みの日に家族でよく出かけていました。そこに日原鍾乳洞という有名な観光洞があり、そこが鍾乳洞初体験でしたが、これが衝撃的でした。洞内に無数に存在する鍾乳石や石筍が作り出す自然の造形の美しさや偉大さ、枝分かれするルートが次はどこへつながるのだろうという期待と不安、洞から出て現実に引き戻された時の安心感と一抹の寂しさ……。この時をきっかけに、子供時代は親にせがみ、自力で行動できるようになってからはもう一人で勝手に、あちこちの鍾乳洞を訪ね歩くのが趣味となってしまいました。

鍾乳洞を訪ねる、と言っても、探検部が行う「ケービング」のような本格的なものでは全くありません。そこまでの勇気も体力もなく、一般の人が入洞可能な「観光洞」を、立ち入りできる範囲で楽しんでます。学生時代、医師になってからも暇を見つけては各地の洞窟を訪ね歩き、現在では日本の

## 私の趣味



高野 修一先生(灘区)

## 鍾乳洞めぐり

観光洞はほぼ制覇したと自負しております。

とはいってもいくつか怖い思いもしました。岩手の滝観洞に入洞した時には停電で洞内の電気が一斉に消え、しばらく真の闇の中で恐怖の中動けなかったこと、東京の倉沢鍾乳洞(現在は閉洞)では入洞者が全く私独りだけで、しかもルートを間違えてしまい、なかなか出てこない私を心配した管理人さんに助けてもらったこと、最近ではメタボになってきた体型のため、細いルートを通すのに手間取り、にっちもさっちも行かなくなる事もしばしば……。

そんな私の現在の夢は、まだ行った事のない沖縄の玉泉洞、東洋で最も美しいといわれる鍾乳洞を訪ねることです。そう言えば今年は辰年、鍾乳洞にも龍泉洞や龍河洞といった「龍」を名に持つものがありますが、いずれも素晴らしく神秘的な洞窟だったことを覚えています。

最後になりますが、皆さま、今年もどうぞよろしくお願ひします。